

**○議長（神山章憲）**

次に、7番馬場勝徳君の登壇を求めます。

**○7番（馬場勝徳）**

7番馬場勝徳です。私は、通告しておりました質問事項1点、町立図書館について質問をいたします。

通告の中で、あらかじめ要旨4項目について述べておりました。これをそのまま質問とさせていただきます。

項目1つ、図書館協議会、これは館の運営全般について決定される機関であろうと思われませんが、この図書館協議会の構成及び協議内容についてお尋ねをいたします。

項目2つ、来館者数、利用者カードの登録者数、1人当たりの図書貸し出し数等々についての実態がいかななものか、お尋ねをいたします。

項目3つ、児童・生徒の図書館利用の利便性ということで、長期休日の夏休み及び冬休みについて、上広校区、下広校区の児童・生徒へのふれあいタクシー特別料金、例えば50%オフにするとかの設定をして中広校区児童・生徒との利便性の差をなくすことを提言したいのですが、町の考えはいかななものか、お尋ねをします。

項目4つ、町民より図書館寄贈の相談を受けることがあります。どういうものができるのでしょうか、あるいは現物の寄附ができるものかどうかを尋ねるといようなお話を伺います。では、その可である場合、可能である場合は条件についてはどういうものか。例えば装丁本に限る、例えば歴史の本に限る、しかし、文庫本はだめ等の制約があるのか、お尋ねをいたします。

以上、要旨4項目についてお尋ねをいたします。小さな質問が若干ありますので、それは質問席でさせていただきます。

以上です。

**○議長（神山章憲）**

教育長。

**○教育長（吉住政子）**

馬場勝徳議員からの図書館についての御質問にお答えしたいと思います。

広川町立図書館が昨年7月に開館いたしまして、1年が経過いたしました。おかげさまをもちまして、現在、多くの町民の皆さんに御利用いただいているところでございます。

御質問いただいております図書館協議会についてですが、構成は5名でございまして、学校教育関係者、社会教育関係者、家庭教育関係者、及び学識経験者、そして公募による方、その5名で組織しております。

協議会は、図書館法に基づきまして、図書館長の諮問に応じて運営に関し意見を述べる機関としておりますが、昨年度に1回、本年度に1回開催いたしました。

26年度の実績及び27年度の事業計画について説明を行いました。また、本年度は先進地であります伊万里市立図書館を視察し研修を行っております。

次に、図書館利用の実態についてでございますが、本年度8月末現在で、来館者数が4万4,185人、単純に1日で割りますと1日平均347名、貸し出しカードの登録者数は3,437人、図書貸し出し冊数は4万847冊という形で多くの方に御利用いただいた実績が残っております。

最後に、図書の寄贈の件でございますが、図書館の開館に伴い、皆様の関心が高く、寄贈についての問い合わせを多くいただいております。

図書寄贈の受け付けの基準としましては、汚損や破損等のないもの、そして、郷土資料や小説

類等で未所蔵のものとしております。

今後さらに、当初の目的であります町民交流センター内の図書館を拠点として、広川町民の交流の場、情報発信の場としてさらに多くの町民の皆さんに御利用していただけるよう、よりよい図書館運営と情報提供、そして、利用の啓発に努めていきたいと考えております。

以上でございます。

**○議長（神山章憲）**

町長。

**○町長（渡邊元喜）**

馬場議員の図書館についての質問の中のふれあいタクシーの件でございます。

図書館の利用において、上広・下広校区と中広校区の児童との差をなくすため、ふれあいタクシーの特別料金の提言でございますが、現在、ふれあいタクシーの運賃につきましては、路線バスの運賃やタクシー初乗り料金との比較、収支率や運行費用の検討を行いまして、町内片道400円、町外は八女公立病院片道800円に設定しております。

お尋ねの児童の利用については、既に小学生につきましては、町内・町外全てを片道200円、未就学児は保護者の同伴のもと無料と設定しておりますので、特別料金の設定については考えておりません。

図書館ほか公共施設の利用に関しましては、ふれあいタクシーの登録を行っていただき、町民の皆さんにたくさん利用していただきたいと思っております。

以上でございます。

**○議長（神山章憲）**

7番馬場勝徳君。

**○7番（馬場勝徳）**

それでは、小さな項目を幾つか質問させていただきます。

図書館協議会、これは運営全てにかかるもの、いわゆる協議をする機関としてその働きがあると思います。ちょうど開設以来1周年を迎えました。当時、この建設について、たまたま私が建設委員長を仰せつかったものですから、ほかの内容にもやはり気にかかる場所がありまして、私もちょいちょい見てきたところであります。

私も見てきた中、あるいは聞く中でいろいろ出てきました。教育委員会のほうもいろいろな事態、案件等は把握してあると思いますので、その中からちょっとお聞かせ願いたいことがあります。

まず、図書館、交流センターですね、入りましてすぐ左手に、図面では管理室となっておったと思うんです。今は片仮名で表現してあるんですか、その左側。片仮名というのがちょっと私はまだ見逃しているんですが、意味するところがわからんというふうに町民の方から聞きます。しかも、管理室が管理室とは書いてありますが、誰もおらんわけですよ。常駐しているわけじゃない。その機能はどういうことを考えてあるのか、まずお尋ねしたいと思います。

**○議長（神山章憲）**

教育次長。

**○教育委員会事務局次長（山下俊子）**

議員おっしゃいました左手、玄関を入りまして左手に小部屋がございます。これはもともと設計の段階で管理人室として設置いたしました。当初図書館のほうは午後6時まで開館ということ。交流センターのほうは午後10時まで使用をしていただいております。そこの職員がおりま

せん6時から10時までの間を管理人さんを置いたらどうかと、必要ではないかというふうな議論をいたしました。そうなりますと、シルバーからの町のほうの宿直室の管理人というふうな形で1名配置するという事なんですが、しばらくは、今まで公民館の利用、社会体育施設についても、利用者について開閉をしていただいておりますので、当座自分たちでやっていただくということで、今様子を見ておまして、必要があればまた管理人を置くというふうな状況も出てくるというふうなことで設置しております。

今現在の利用としましては、あそこの中に給湯室がございます。町のイベント等につきましては、町民の皆さん方にあそこの給湯室を使っているような状況もあります。また、パソコンを置いておりますので、玄関を入りまして、階段の手前に掲示板がございます。掲示板にいろんな記載ですね、掲示をするためのパソコンというふうな形で設置しているような利用状況でございます。

**○議長（神山章憲）**

7番馬場勝徳君。

**○7番（馬場勝徳）**

図書館協議会の構成メンバー、これをちょっと教えてください。

**○議長（神山章憲）**

教育次長。

**○教育委員会事務局次長（山下俊子）**

先ほど教育長が答弁いたしました5名で設置しておりますが、学校教育関係者としては、町内の小・中学校のほうから、代表で校長にお願いしております。社会教育関係の分野からは、広川町郷土史研究会のほうからお願いしております。家庭教育関係としては、民生児童委員さん、それから、学識経験者として九州大谷短期大学の助教授、図書館の先生であります方に入っております。もう1名は公募いたしました。公募をした結果、建設委員にも入っております、お話ボランティアの方に入っております、5名で構成しております。

**○議長（神山章憲）**

7番馬場勝徳君。

**○7番（馬場勝徳）**

協議会のメンバーをお尋ねした理由は、御承知のように、今常時勤務の方は、図書館の場合ですと館長以下5名、全部女性ですたいね。私ずっと見てきよって、少し考えんといかんと思ったのは、防犯、特に不審者対策、これがちょっと考えんといかんのじゃないかなと感じるところがありましたので、構成はどんなふうになっておるんですか、その中でこういう防犯について協議がありましたかとお尋ねしたいんですが、ここまで突っ込んで話をされましたか。

**○議長（神山章憲）**

教育次長。

**○教育委員会事務局次長（山下俊子）**

図書館協議会の中では、防犯については特に協議事項としては上がっておりませんが、防犯対策としましては、図書館の館内に防犯カメラ、防犯カメラ作動中というふうな表示をしておまして、録画はしておりません。それから、八女警察署のほうに交番のほうから立ち寄って館内をちょっと見てくださいというふうな依頼をしております。

議員おっしゃいますとおり、今たくさんの方に利用をいただいておりますが、その中で

若い職員に必要以上に話をされてくる方とか、ちょっと気になる方も数名いらっしゃいますので、そこら辺の対策としてそういうふうなことを考えているところです。

○議長（神山章憲）

7番馬場勝徳君。

○7番（馬場勝徳）

そこです。そういうことがあるんじゃないかと思ったので質問したわけです。もうかなり年数がたちますが、大阪の池田小学校でしたかね、大変な殺傷事件等があって、以後、その対策として小・中学校にはさすまたを常備して防犯対策をする、あるいは訓練もしようというようなことも今あっていると思いますが、特に図書館の場合は女性スタッフだけですので、少なくともさすまたを置くぐらいの考えは持つべきじゃないかと思います。それを提言したいのが1つ。

さらには、せっかく置いたならば、使い方ぐらいは、一人じゃ無理ですので、二、三人で対応するよとか、そういうふうなことの訓練もプロの警察関係の方を呼んでその指導をいただくというようなことも必要だと考えますが、町の考えをお聞きします。

○議長（神山章憲）

教育次長。

○教育委員会事務局次長（山下俊子）

議員おっしゃいますとおり、さすまたの配置を公共施設のほうに、池田小学校の事件以来設置いたしました。その折には、警察官に来ていただいて、使い方等の訓練ですね。学校での教職員あたりもやっていたんですが、今ちょっと意識が薄れてしまってそういう訓練はやっていないんですが、議員おっしゃるとおり、役場の中にもさすまたを設置しています。図書館のほうにもやっぱり必要ではないかというふうに思いますので、今後検討して、購入の方向で進めたいというふうに思います。

また、消防訓練等は年に1回やっておりますが、そういうふうなAEDの使い方であったり、さすまたの使い方であったり、また警察のほうにお願いしてそういうものやっつけていかなきゃいけないというふうに考えております。

○議長（神山章憲）

7番馬場勝徳君。

○7番（馬場勝徳）

同じくこの協議会でぜひ把握していただきたいというところで、町は3小学校ありますが、夏休み、冬休み、壇上で質問しましたが、長期休暇のときの便宜を図っていただきたい。利便性で中広川校区と差がないようにするという一つの方法として、現在、半額ということですけども、さらにその50%、公共交通機関との必要経費の面から制約があるというふうに伺ったんですが、考えてみますと、東部地区、あるいは上広川校区の交流を図れとか、方法は考えているかとか質問が今まで出ておるわけですね。それで、バイパスはもちろん考えていくことだと思います。さらには商業施設を大型を持ってくるとか、そういう計画も必要でしょうが、それは二、三年でできる話じゃないですね。長期計画に基づくことになると思います。では、今、近くやれることは何かといいますと、定住化促進のためには、例えばこういうふうな利便性を図るために、小学生はもうただとはできんでしょうから、さらに半額の200円運賃を考慮する、町で助成するとか、きめ細やかな対応がやはり人を引きつける要素であると思うんですよ。そういうふうに考えましたので、中広校区との平準化を図るためにどうだろうかという提言をしたんですが、町の考えをもう一回、運賃についてお尋ねします。そういう考えはいかがでしょうか。できませんか。

○議長（神山章憲）

協働推進課長。

○協働推進課長（丸山英明）

デマンドタクシー、ふれあいタクシーの料金ですけれども、ふれあいタクシーの料金の設定につきましては、先ほど町長の答弁にもありましたように、その他の公共交通機関との均衡とか、そういうものを踏まえまして、地域公共交通協議会にて決定をいたしております。この決定の料金につきましては、陸運局等からの許可なり申請という形でいただいております。このふれあいタクシー自体の料金設定をこの場で変えるということ、料金自体を変えるということは現在考えておりませんし、なかなか改定の条件としては難しいところであると考えております。

それとほかの公共施設の利用に対しましての補助ということでございますけれども、その分については、図書館のみならず、ほかの公共施設、例えば運動公園ですとか、広川球場ですとか、そういうところに対しましての補助については、それぞれのところでどういう利用促進を図るために設定が必要かどうかというのは協議の必要があるかもしれませんけれども、ふれあいタクシー自体の料金の改定については現在のところ考えていないというところでございます。

○議長（神山章憲）

7番馬場勝徳君。

○7番（馬場勝徳）

話はちょっと古くなるんですけども、ことしの1月27日でした。北海道の当別町というところから木製の、いわゆる木造建ての図書館を見たいというところで視察においでになりました。当別町の議長さん以下6名の議員団の皆さんでした。そのとき対応したのが教育長以下、次長さん、それから担当の方、職員さん、私ども議員の対応は、厚生常任委員の範疇だろうということで、私と、それから、委員長が休養中でしたので、池尻議員と2人で対応したところであります。

確かに、できてまだほやほやでもありますし、木の香り、みずみずしい、すがすがしいところで図書館のたたずまいというものを披露できたところであります。さらには、近いところでは、先月の7日、午後から図書館まつりというのを開催されました。子供たちをメインとしたお祭りでしたが、例えば紙芝居、朗読、あるいは手品というふうな催しがありまして、子供たちは大にぎわいだったですね。それは非常にいいことだと思ったんですが、のぞいたところ、残念ながら、上広校区、下広校区の児童が少なかったように見受けられます。それで、こういうところにも、近くの中広校区はすぐ近くですから、校区外の規制というように、小学校の場合はいろいろ外出について規制があるんでしょう。そういうのもあると思うんですが、中広は確かに恵まれておるです、すぐそばだから。ああいう催しにさっと来られる。しかし、上広、下広の児童は、子供たちはなかなか距離上るのが難しい。そういう便宜を図るためにも、何とかふれあいタクシーを利用する手だてはないものかと考えます。

それで、今後ぜひ検討していただきたいんですが、とにかく必要なものは、本を貸し出すけん、これを見てくれというんじゃないかんと思うんですね。図書館の本を貸し出すからこれを見てください。これが図書館ですよ、それは違います。図書館に来て、そのたたずまいの中で本を見たり話をしたりするのが図書館を建てた大きな理由なんですよ。そういう触れ合いの場、あるいは文化発祥の場所として広川町の名を高めるためにも、もっと上広、下広、多くの子供たちに来ていただきたい。そういう考えがあります。

それで、今後ぜひ考えをそういうふうに、平等に利便性を享受できるように、そこをしっかりと考えていただきたいと思います。これはまた継続して展開していきたいと思えます。

では、さらにそういうふうに非常ににぎわいを見ております。さらには研修施設、あるいは下の子育て支援のハグハグですね、非常な交流を見ております。この交流はすばらしい実績だと思うんですが、先ほど実績をお尋ねした中で、ハグハグのぐあい、この内容についてちょっと聞き漏らしたんですが、これは把握してありましたら、質問としたいんですが、いかがでしょうか。今ハグハグの利用度、わかりますか。

○議長（神山章憲）

福祉課長。

○福祉課長（坂本幸枝）

ハグハグにつきましては、今資料として手元に持ちませんので、すぐ把握はできますけれども、あとで返事ということでもよろしいでしょうか、回答。

○議長（神山章憲）

今の件については、質問からちょっと外れておりますから、どういうふうなことになりますかね。

○7番（馬場勝徳）

こういう内容についても、施設ですので、ハグハグも交流センター施設の一つですので、協議会の中で把握しておくべきことだと感じましたので質問したんですが、外れているということならば撤回しますが。

○議長（神山章憲）

福祉課長。

○福祉課長（坂本幸枝）

実は、この図書館についてということで御質問があつていましたので、子育て支援センターはまた別の、この協議会の中には入っておりませんから、ハグハグについては、特別子育て支援センターについては特別な御質問がなかったものですから、今資料としてお持ちしておりませんのでお答えすることもできませんというところですが、以上です。

○議長（神山章憲）

7番馬場勝徳君。

○7番（馬場勝徳）

図書館協議会は図書館に限定。

○議長（神山章憲）

福祉課長。

○福祉課長（坂本幸枝）

はい。

○議長（神山章憲）

7番馬場勝徳君。

○7番（馬場勝徳）

そんなら私の失念です。それは撤回します。済みません。

では、図書館に限定して。図書館の事務室があります。その北側に閉架書庫、御存じですか、閉架書庫があります。閉架書庫を見せていただきました。もうすごい冊子の本が棚にずらっとあります。この閉架書庫ということと、大量の図書を保管してあるというこの理由をお聞きします。

○議長（神山章憲）

教育次長。

○教育委員会事務局次長（山下俊子）

閉架書庫の利用ですけれども、閉架書庫と申しますのは、開架書庫、今開架の中にあります書棚の本、それが5万冊というふうに当初言っておりましたが、7万冊ぐらい収容できるんじゃないかというふうに思っております。

今の蔵書数からいきますと、まだ開架のほうに本棚が余裕がありますので、そちらのほうに本を置くことになりまして、本来の本の閉架書庫に入っている分はありませんが、今現在、閉架書庫の中に入っております本は寄贈の本でありましたり、まだ開館のための開架書庫に置くための整理の本が置いてあるような状態でございます。

○議長（神山章憲）

7番馬場勝徳君。

○7番（馬場勝徳）

では、閉架書庫は廃棄するためだけのあれじゃないということでしょうか。

○議長（神山章憲）

教育次長。

○教育委員会事務局次長（山下俊子）

そのとおりで、開架の中にいっぱいになりまして、それを順次入らなくなれば閉架のほうに入れておく、そしてまた、貸し出しがありますので、希望の書籍とかがありますので、閉架書庫から取り出してお貸しするというふうな形になってくるかと思えます。

○議長（神山章憲）

7番馬場勝徳君。

○7番（馬場勝徳）

この閉架書庫を拝見させていただいたときに、余りにも立派な装丁本と申しますか、もう見ただけで高価な、しかし、中身は見ておりません。読んでおりませんが、いかにも高価な、ずらっと並んでおります。そして、多分捨てるためじゃないとは思いますが、聞きましたら、いや、これは寄附をいただいておりますね。寄附をいただいておりますなら、これはどういうふうにするんですかと聞きましたら、実はこれをよく掃除をして、いわゆる分類番号にはめて、実はこれをするのが、1冊するとなると小一時間かかりますと、装丁本の内容にもよるそうなんです、ということでした。せっかくいただいておりますのになかなか日常の業務、ルーチン業務とか、そういうことで、いただいたものをするだけの余裕がないと、済みませんがありませんということでした、館長がですよ。

そこでお尋ねです。どんなふうにしましょう、どういうふうにしたらいいと思えますか、考えを聞きます。

○議長（神山章憲）

教育次長。

○教育委員会事務局次長（山下俊子）

今現在、職員、プラス土日臨時というふうな形でやっております。なかなかお客さんが多くて、接客であったり事務的なものであったりというふうで職員もてんてこ舞いしております。

寄贈いただきました書籍につきましては、今議員おっしゃいましたとおり、分類を示しますシール、それからICタグ、そして製本というふうな形で時間がかかりまして、寄附につきましては

も、先ほど教育長のほうが答弁いたしましたとおり、管内にないもの、郷土資料等々について、まだ入っているんだと思いますが、順次製本しながら開架のほうに入れていくというふうな形になるかと思います。

寄附をいただきました中にも、開架、ダブったものとか、開架の中に置けないもの等もたくさんあるというふうに思っております。その書籍につきましては、年に1回町民の皆さん方にイベントの中で無料配布をしております、書籍の付録であつたりですね。そういうものを提供して、1回昨年行いましたけれども、大変反響を読んでいます。また、そういうこともお知らせしながら書籍の整理等はやっていきたいというふうに思っております。

**○議長（神山章憲）**

7番馬場勝徳君。

**○7番（馬場勝徳）**

今おっしゃったICタグですね、これを設置するだけでも何か相当時間がかかるんだそうですね。普通でしたら、いただいたものはきれいにはたいたりして管理番号を張ってからぽんとおけば、今までの図書館だったらそれでいいのかと思うんですが、IC対応で、台の上に乗せただけでぽんと全てわかる。今は全てIC仕様ですたいね。それをするためには、しかし、そういうふうに事前の作業というのが非常に時間を食うという、便利ではあるけれども、そっちのほうに時間を食うというようなこともありますので、せっかくいただいたからには、やはり立派なものは早くこっちの開架のほうに並べていただくというふうなものをできるだけ急いだほうがいいと思いますので、どういうふうな考えかを聞きました。それは、じゃ、なざるわけですね。

**○議長（神山章憲）**

教育次長。

**○教育委員会事務局次長（山下俊子）**

図書館の職員も、忙しい中ではありますが、一生懸命やっておりますので、議員おっしゃるとおり、いろんな方に、多くの方に利用していただきたいということで毎月イベント等もやっております。また、人員体制も見ながらよりよい図書館を目指していきたいというふうに思っております。

**○議長（神山章憲）**

7番馬場勝徳君。

**○7番（馬場勝徳）**

8月発行でしょうか。図書館だより、これはもういっちょ前か。こういうふうにはずと折につけ出してありますよね。これを見ますと、見てくれるといいとですが、なるだけ見ていただきたいんですが、もう非常にすばらしい案内があつております。だから、これをよりよく見ていただく方策を考えていただきたいことと、できれば見るとに字を少なくして絵を載せるというふうなことも考えていただくことを今後御検討いただきたいと思います。中身は非常に立派なものだと思います。これはぜひ続けてください。

考えていただくということでございますので、以上をもちまして私の質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。